

岡山県生涯学習センターは、「学び」を通して自己の充実・啓発や生活の向上を図り、生涯にわたって行う学習活動を支援しています。人がつながり、「学び」の成果を地域社会に生かすこと、そして、多様な主体の連携・協働により「学び」や「学びの成果」を生かす場を創り出すことを目指しています。

今回、テーマとしている「学びing」とは、「今まさに学んでいる」「学び続けている」という「学びの進行形」を表しています。今号では当センターの講座やイベントに参加・協力していただいた方を中心に、その方の「学びing」な姿の一端を紹介しています。今回取材させていただいた方々を見ていて感じたことは、それぞれが「学び」を楽しみ、日々の生活の中でも輝いているということです。読者の皆様に、この「生き生きとした学び」が伝われば幸いです。

岡山県生涯学習センターは、これからも人づくりと持続可能な地域づくり、つながりづくりを大切に、皆様の学びを応援していきます。



岡山県生涯学習センターの機能と今号で取り上げた事業の位置づけ

人材育成	▶ 基礎研修 ▶ 実践型指導者養成	▶ 地域づくり人材養成セミナー 「若者と『つながる』事業」 P3-4 「若者発！まちプロ」…… P5-6
市町村・公民館支援	▶ 市町村支援 ▶ 公民館活動の活性化	
調査研究、 学習情報の発信	▶ 調査研究 ▶ 情報提供 ▶ 生涯学習大学 ▶ 学習相談 ▶ 広報 ▶ 教材の活用と提供	▶ 主催講座 「子どもの体験活動 ボランティア」…… P1-2
「学び・交流の場」としての 機能充実	▶ 発表、展示、体験、交流 ▶ 生涯学習団体等への貸出	▶ 科学キッズフェスティバル in 京山祭 …… P9-10
科学教育の推進	▶ サイピアの運営支援 ▶ JAXA連携事業	▶ サイエンスインストラクター 養成講座…… P7-8

発行：岡山県生涯学習センター

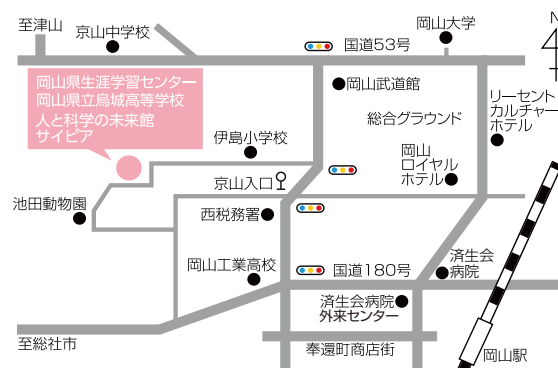
〒700-0016 岡山市北区伊島町三丁目1番1号
<http://www.pal.pref.okayama.jp/>
<https://www.facebook.com/okasyogaise>

総合案内(施設・視聴覚教材等予約)

☎ 086-251-9788 fax 086-251-9781
 総務課 ☎ 086-251-9750 fax 086-251-9757
 振興課 ☎ 086-251-9751
 学習相談 ☎ 086-251-9758
 人と科学の未来館サイピア
 ☎ 086-251-9752 fax 086-251-9780

開所時間 火曜日～土曜日：午前9時から午後9時まで
 日曜日・祝日：午前9時から午後5時まで

休所日 月曜日(その日が祝日に当たるときを除く。)
 祝日の翌日(その日が祝日でない火曜日から金曜日まで)に当たるときに限る。
 12月28日から翌年の1月4日まで



岡山県生涯学習センターだより

No.51

学びing

take
Free
2018



岡山県生涯学習センター



Voice



ママ友 松原さん

子どもの外遊びの大切さに気づき始めたときに、枝廣さんから声をかけてもらいました。一緒に講演会や研修に参加して、勉強しながら、悩んで、考えて、やってみる。
一人では描くだけの夢も、仲間がいるから叶えられる。私たち大人も子どもたちと同じように、成長し続けていきたいです。



ママ友 横山さん

思い描いたことを実現していく。そんな枝廣さんとの貴重な出会いがあり、外遊びの活動を始めました。『あそび屋。おせと』です。自然の中で思いっきり遊び、同じ思いのメンバーと一緒に、笑顔いっぱいのあそび場づくりを目指します。

自己発見の旅

あそび屋。おせと 枝廣 真祐子 <主婦>

『子どもに必要な体験を学ぼう』公民館でそう書かれていたチラシが目につき、手に取りました。既に締め切りが過ぎていたので、『まだ間に合いますか…?』と連絡したところ、『大丈夫ですよ!』と快くお返事をいただき、ホッとしたのと同時に、どんな講座なんだろうとワクワクしたのを覚えています。

私は小学生の頃、祖父母の家へ帰り、共働きの両親が迎えに来るまで過ごしました。そこには、私の姉弟と従妹、近所の友達など、年齢も性別も違う子たちが自然と集まり、いつもみんなで遊んでいました。自分たちの住んでいる地域の隅から隅までが、私たち子どもの「遊び場」でした。

祖父母の家のすぐ裏には吉井川が流れていて、時々みんなでそこへ行って、ただ石を投げたり、何か宝物になるようなものを探したり、タイムカプセルを流してみたりしました。忘れた頃にタイムカプセルの返事が届いたこともあり、子どもながらに感動したのを覚えています。

大雨の翌日には、通学路の横の小さな溝に山から大量の泥水が流れ込みます。私と友達は、なんのためらいもなくそこへ飛び込み、バルーンのように空気でフワフワに膨らんだ制服のスカートに両手をそっとのせて、お姫様気分でかなりの距離をそのまま水の流れてに乗って下校しました。やがて溝も行き止まりになり、仕方なく這い出た私たちは、大量の泥水を含んでやたら重くなった制服でピトピトと足あとを付けながら帰宅しました。それでも祖父母には大して叱られませんでした。

振り返ってみると、私の子どもの頃の遊びに、大人は登場しないことに気が付きます。
でも、ちょっと危ないことをしたり、寄り道したりしていると、畑のおじちゃんやすれ違うおばちゃんに叱られ、ドキッとして早足で逃げる。「お帰り。暑かったろう」とか「そろそろ日が暮れるけん、家に帰りんちゃい」と大人に声をかけられ、見守られている。遊びに対する大人の関与は、それ以上でもなく、それ以下でもない。そんな環境で私は自由にのびのびと遊びながら育ちました。

今、私は母親になって戸惑うことがあります。
子どもの「遊び場」ってどこだろう。
子どもの「遊び」ってなんだろう。
子どもの遊びでの「大人の役割」ってなにか…と。

まさにそんな時、岡山県生涯学習センターの講座に出会いました。

講座に参加して、子どもの遊びについて学ぶだけではなく、「子どもに必要な体験」について真剣に考え、取り組まれている他の受講生の方々と繋がれたことがとてもありがたかったです。講座を受講したおかげで、自分の中の気持ちに整理がつき、講師の方や受講生みなさんにたくさんの勇気を貰った私は、その後、仲良しのママ友に「子どもの外遊びの場づくりをやりたい」と相談しました。

そして、気づけばママだけではなくパパも巻き込んで、現在有志6家族が集まり、『あそび屋。おせと』という団体として動き始めたところです。4月からは地域の誰でも一緒に運営に携わってもらえるよう、公民館サークルとしてもスタートします。

やりたいことのために学び、学びの場に行くと仲間ができて、新しいつながりが自分のやりたいことを後押ししてくれて、自分の世界がどんどん広がっていく気がします。私にとっての学びとは、人として、母親として、少しずつでも前向きに成長していくことを目指した、自己発見の旅なんだと思います。これからも、大切な仲間と共に学び、子どもの遊びの場づくりに生かしていきたいと思っています。





Voice



㈱トヨタレンタリース岡山
代表取締役社長 梶谷 俊介

若者と「つながる」事業への協力要請を受けた時、大人と若者が同じ場で対話することの可能性と意義を感じ、私自身が参加したいと思いました。年齢条件と日程が合わず、社員に参加を促したところ、2名が参加してくれたことは大変うれしいことでした。

社員が会社以外の場を経験することは、仕事とは違う面から自分の可能性に気づく機会であり、大変有意義だと思っています。目の前の仕事に集中すればするほど、視野が狭くなり、一面的な見方になりがちです。仕事以外の場を経験することで、自分とは違う様々な立場の方の意見や行動に触れ、自分の視点の偏りに気づき、仕事の面でも幅が出ると思います。今回、参加した磨田は高校生の変化から大きな刺激を受けると同時に、業種の違う皆さまの姿勢にも接し、「人のために」という仕事の原点や弊社の経営理念を再確認することにつながったと思います。このような機会を与えていただき、誠にありがとうございました。

やっぱり大切なのって「人間力」なんですよ…

今回の講座に参加して、むっちゃ感じるがありましたよ。

本当に楽しかったです。普段かかわることができない高校生と話して、「本当に素直だなあ。素直でいるっていいなあ。」と思いましたし、自分と違う分野の方と知り合うことができて、いろんな考え方に触れることができました。

今回は「自分のことを認めてくれているな」「自分のことを信頼してくれている人がいるな」ということを高校生に感じてもらうことが目標だったんで、どうやったら少しでもお互いの距離を縮めることができるかなって考えました。そうしたら、時間を重ねるごとに高校生も心を開いてくれるようになってうれしかったですね。同時に、会社の後輩たちにもこういう姿勢で接することができたらもっといい関係を作ることができるだろうなって思いましたよ。

自分はすぐに怒ってしまう方なので…(笑)

また、最初のドキドキ感や緊張感も新鮮でよかったですね。仕事も慣れてくるとこんなこと感じなくなってしまうし、自分ができるようになったら、相手に何でできるんって思ってしまったりするじゃないですか。昔、上司に言われてもっと言い方あるじゃろうって思ってたけど、実際、同じ立場になると自分も同じように言ってることあるんですよ。やっぱり自分が新しいことをするって大切ですよ。

同じボランティアとして参加した方も素敵な方ばかりで、「もっと知りたい!」って思いました。でも、実は最初、「全く職種も違うし、どうなんだろう」って思ってたんですが、それが逆に新鮮でした。自分は普段、「営業」をしているのでどうしても「数字」とか「お金」ってことを最初に考えてしまうんですよ。でも、今回の講座には、教育分野の「人を支える」ってところで働いている人が多かったんで、その人たちの情熱をもって「人のために」って考え

㈱トヨタレンタリース岡山 磨田 竜馬

に刺激を受けました。やっぱり「この人のために役立つことを」って気持ちでやってたら、お金は後でついてくるんだっていう基の部分の思い出すきっかけになりましたね。

会社の方針でもあるんですけど、やっぱり大切なのって「人間力」「人間として」の成長なんだと思います。仕事とは全く違ったところとかに研修に行かせてもらって、新しい考えに触れているとちょっとずつだけ考えが変わってきてるなって実感しますよ。「教育で人って変わるんですよ!」後輩のためにも、この学びの流れって作っていきたいんですよね。



新しい人（世界に）出会う

実は高校生の時には現代社会学科が何するところかも知らなかったし、こんな分野があるってことも知らなかったんです(笑)。ただ、社会について学ぶっておもしろそうって思ってこの学科に進学しました。

私、「新しい人（世界）に出会う」ってことがすごく好きなんです！それで、「自分の世界が広がっていく」ってことが楽しいですよ。

今回の講座で、私は「人おこし」をしているところに行って、ひきこもりだったという人に会ったんです。そこで初めて、そういう人のイメージを勝手に作ったり、壁を作ったりしていた自分に気がついたんです。そこでは、口数が少なくても拒否されている感じは全然しなかったし、逆に、ここで出会えたことにありがたうって言うってくれる方もいたんです。この言葉は心にぐっときました。私も役に立てたんだって思えたり、ここでの経験で自分が広がっていったことも本当にうれしかったんです。

岡山市の交通探検隊（自分たちで、ももちやりや路面電車、バスを使ってみてよかったことや改善点について話し合う）っていうのにも参加したことがあるんです。みんなで話し合うっていう過程も楽しいんですけど、街がよくなっていくことに自分が携わることができるっていうことにワクワクするんですよ！その後も、あの時に自分たちが考えたことで何か変わったかなあとって街のこと見るようになるんです。今まで、使ったこともなかったし、考えることもなかったのに…。また、自分のアンテナが1つ増えたなって感じるのもすごくうれしいんです！！

大学生になって「自分がこんなに地元のことが好きだったんだ」って自分でもびっくりしました！もしかしたら、いろんな地域のことを勉強したり、フィールドに出て行ったりしていることにも関係があるんですね。この講座で地元の美作をインターン先に選んだのも、地元のことについて自分が「全然知らない！もっと知りたい！」って思ったからなんです。結局、就職先を決めるときも悩

Voice



ノートルダム清心女子大学
准教授 二階堂 裕子

研修が終わって、すぐに学生からメールが届いたんです。その文面からは、すごい興奮が伝わってきました。私も、フィールドワークに力を入れているんですけど、やっぱり泊まりということが大きかったんですね。お客さんとしてではなく、一員として地域に入る…。

こうやって現場での経験の機会を提供してくださった方には、本当に感謝しています。

彼女たちとは、地域の現状以外にも、その時に感じたこと、想いの変化などについても振り返り、深く考えました。卒業論文がとて濃いのになったというのももちろんですが、現場で多くの方の生き方を学べたことは、これからの人生にとっても大きなことだと思います。



受入団体：NPO 法人山村エンタープライズ
代表理事 藤井 裕也

ノートルダム清心女子大学 4 回生 大谷 恵理

んだんですけど、ある企業で言われたんです。「うちじゃなくてもいい。ぜひ県北に帰ってきて欲しい。そしたらどっかでつながっているから…」それで思ったんです。「私一人だけど…地域のために働きたい」って。実際に働くところは、直接地域づくりにかかわる仕事ではないんですけど(笑)でも、お店で接する方は地域の方になるだろうし、その方たちに喜んでもらいたいって思うし…やっぱりつながっていると思うんです。



今回、お二人が来てくれて、人おこしの参加メンバーも新しい出会いがあり元気づけられました。また、熱心に移住者や地域のリーダー、地域で活動する地域おこし協力隊から話を聞き、活動にも参加してもらい、大学生なりに解釈をして意味づけしてくれました。そのことで普段私たちが気づかないようなことにも気づかせてくれ、私たちにとっても学びの多い時間でした。地域の魅力とともに、現場の空気感や、地域が抱えるリアルな問題や矛盾についても触れてもらえたかなと思っています。綺麗事ばかりではない、答えのない地域づくりの現場ですが、これを糧にどの立場にいても、地域づくりの一員として将来羽ばたいてほしいなと思いました。ありがとうございました。



voice



辻 志帆さんの長男
辻 颯太郎

家では、母と一緒にサイエンスショーの開発をしています。子どもならではのアイデアは、母にとって嬉しい発見だそうです。サイエンスインストラクターをするようになって、やりたいことをやれるので、ぼくには母が『自由』な感じに見えます。常に科学ショーのアイデアを探すようになり、とても楽しそうにしています。

好きなことだからやってみたい！チャレンジしたい！

大学時代では理系の研究室で学び、卒業後はシステムエンジニアとして働いていましたが、主婦になってからは仕事も辞め、科学から遠ざかっていたので「科学に飢えて」いました。

科学館巡りや、家での実験などだけでは物足りなく思っていたところに、センターのボランティア募集を知りました。最初はボランティアとして子どもたち向けの科学イベントに関わっていましたが、サイピアの「サイエンスインストラクター養成講座」に参加させていただくことで科学講師としてのノウハウを得ることができ、お手伝い、補助を経て今の講師の仕事に至りました。私は養成講座の一期生にあたります。

実験を通して、子どもたちの中に「科学の種」をまき、その種が芽吹いて笑顔を引き出した瞬間はとても嬉しいです。

また、まかれた「科学の種」は時間をおいたあとでも芽吹くことがあります。その事に気付いたときも、大きな喜びですね。目を大きく見開いて、科学の不思議さに興じる様子を見ると、こちらも元気をもらえます。さ

らに、ただ単に子どもたちに働きかけるだけではなく、その保護者の方たちにも働きかけるようにしています。保護者の方たちを、「家庭の中の科学講師」に仕立て上げる試みです。そうならしまえば、これほど心強い科学リテラシーの普及はありません。時間がかかるかもしれませんが、保護者を巻き込んだ「科学の種まき」はとてもやりがいを感じます。

逆に、ショーや企画で、自分の中で納得のいくレベルのクオリティをお客様に提供できなかったときはとてもつらいですね。今は、クオリティの質を下げないような工夫をしています。

みんなの前で実験を続けていくうちに、「自分が人生の主人公」ではなく、「誰かのために力になりたい」という考えに切り替わったことに気づきました。特に、これから未来を担う子どもたちに全力でサポートしたいと、心から思うようになりました。それが、私の大好きな「科学」のできるんですから、最高ですね！

また、家族や友人、知人からも、私の姿勢を応援してもらっています。心強い応援です。

人と科学の未来館サイピア
サイエンスインストラクター 辻 志帆

自分にとっての「学び」は、「『自分ではわかったような気がしていること』に気付くこと」ですね。なんとなくわかったような気がしていても、人に説明するとなると意外にできなかったりしますよね。子どもを相手にしているので、その点は毎回とても勉強になります。難しい言葉を使わず、入り組んだ理論は置いておいて、いかに簡単に、直観的に、オモシロタノシク、科学の不思議さを伝えられるか。その点は、いつも試されているなあと思います。保護者や子どもたちから、「わかりやすい!」「おもしろい!」と言われると、私の学びが実を結んでいるような気がして、とても嬉しいです。

今後は、子ども一人ひとりに向き合った、不登校支援としての科学実験講座をやりたいと思っています。学校にはなかなか行きづらくても、家以外にも楽しい学びの場所があれば閉じこもっている必要はない。そんな、外に出るきっかけの一歩になるような企画ができたらいいいと思います。





思ったより簡単で、楽しい！

ボランティアは難しそうと思っていたけど、思ったより簡単でした。着ぐるみを着て子どもと写真を撮ったとき、とても楽しかったです。

ボランティアをする前は、子どもは苦手と思っていました。子どもに付き添って教えたら喜んでもらえて、ちょっと苦手に変わってきました。

一番心に残っている場面は、子どもが笑いながらストロー飛行機を飛ばしていたこと。その時、自分自身幸せな気持ちになり、もっといろんな子どもたちを喜ばせたいなと感じました。

早起きはめんどくさいし、子どもが苦手と思っていました。ブースでチケットを渡したときに、子どもがうれしそうに笑って「ありがとう」って言ってくれました。子どもはまだ苦手だけど、少しかわいくなりました。

ボランティアは、少し大変だと思っていました。ボランティアをしているとき、子どもに「何してるの？」と声をかけられて、一緒に缶バッジを作ったときに楽しいと感じました。ボランティアをして、すごく良かったです。

岡山県立鳥城高等学校 有志ボランティア

説明がうまくできないので、対応がうまくできるかどうか不安だったけど、小さい子に伝わっていて本当によかったと思いました。練習のときは全くできなかった静電気クラゲの見本も本番ではできてうれしかったです。

voice

一緒に活動した大学生の声から

自分たち大学生より積極的に動いていました。自分で考えて動いている姿に見習わなければならなかったと感じました。

